

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	介護老人福祉施設 No. 0176400034		
法人名	社会福祉法人 萌寿会		
事業所名	グループホーム 萌寿園		
所在地	北海道留萌市沖見町6丁目18-6		
自己評価作成日	平成25年8月20日	評価結果市町村受理日	平成25年10月31日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当GHは開設して10年を迎える。併設の特養、デイサービス、居宅と協力体制も整っており母体の特養と共に地域との交流もある。通院と入浴に援助量が増えていることを勘案し、食事の一部を委託し、ケアの充実を図っている。また、GH単独の月行事では、順子クラブ(書道)や久美子クラブ(製作)に加え昨年「ふまねっと運動」「ドラムサークル」を継続し、ボランティアの力にも支えられている。また、ケアの質を高める目的で市内に新設されたGHと交流する機会も今年度から始めている。この内容は月2回のレクに入居者を受け入れ当ホームの入居者と一緒に過ごして頂いている。もう一つは、「井戸端会議」と称した職員勉強会を月1回開催し、情報交換を行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [index.php?action=kouhvou\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0176400034](http://index.php?action=kouhvou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0176400034)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成25年10月3日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム萌寿園は、開設して10年を経過しています。特別養護老人ホームと併設であり、様々なイベントで交流もあり、利用者にとって参加できる、活動できる、一緒に楽しめる環境となっています。退職した職員が引き続きボランティアとしてクラブ活動を行っていたり、傾聴ボランティアの受け入れ、ふまねっと運動、ドラムサークルで楽器に触れリズムに合わせ叩いたり、身体を動かす等、体力維持や筋力アップを図る事で余暇時間を大いに楽しんでいます。また、他のグループホームとの交流でふまねっと運動に感動し、このホームに直接通ってくる利用者もいます。この交流から、職員間の「井戸端会議」としてケア会議が発足しています。職員に対する研修体制も整い、経験に合わせた研修受講や伝達研修、資格取得の為に勉強会が行なわれ、職員の働く意欲の向上に努めています。今後も、利用者の笑顔で明るく楽しいホームづくりを目指しています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			実施状況		
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念、方針に基づき行動を具体化した7項目の「職員行動指針」がある。互いに理解を深めあい日常業務を意識している。	法人経営理念を掲げ、個別に職員行動指針を携帯する事でケアの心得を確認し、実践しています。笑顔で明るく楽しいホームでの生活を常に意識し、イベントや活動を多く取り入れ、意欲の向上や体力の維持、生活に潤いが得られる取り組みを続けています。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に、食材を買いにスーパーに出かけている。母体の特養と共に学校や娯楽施設へ出かける行事を実施している。	利用者が地域とつながりながら暮らせるように、積極的に支える支援をしています。併設の特養と合同でイベント開催や、学芸会へ見学に出かけたり、他のグループホームの利用者との交流、地域の方がボランティアで訪問等、関わりを大切にされた支援が行なわれています。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体と共に、ヘルパー実習や札幌大生の地域医療実習の受け入れをしている。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、町内会、市介護保険課長(担当)等を委員とし2か月毎に開催し実施行事の報告、計画等の説明を行い委員からの建設的な意見も多く運営に活用している。	2か月ごと開催されている運営推進会議では、事業所からの報告と参加メンバーから質問、意見交換が活発に行われ、ホームの運営に活かしています。新たな取り組みについて説明を詳細に行い、欠席の家族にも会議録が配布され、情報の共有が図られています。				
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険係、地域包括支援センター、ケースワーカーとも連絡を密に取っている。他、運営推進会議委員を通じ事業内容の相互理解を深めている。	行政の窓口には直接出向き、相談や手続きを行い顔馴染みの関係を築いています。運営推進会議には介護保険課や地域包括支援センターの職員が交代で参加し、ホームの状況や活動内容を確認してもらっています。市内に設置されている「健康の駅」との情報交換もしています。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯対策で夜間帯のみ。また、身体拘束廃止委員会規定もあり 拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内に「身体拘束廃止委員会」を設けており、拘束廃止や付随する行動や言動の意識を高めています。外部研修参加者の伝達研修にも力を入れ、全ての職員が身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。利用者の危険防止の為に止むを得ない対応については、ケアプランに挙げモニタリングする事で評価し、終了に努めています。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会にも参加し、「不適切なケア」が見逃されることがないように法人全体の職員は注意を払い防止に努めている。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に出席し理解を深めているが、それらの活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金改定の際は、説明と共に同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置と家族来訪時に、ご意見などをお聞きし運営に反映させている。	面会や受診後の報告時に生活の状況を伝え、家族からの要望・意見を聞いています。申し送りや会議で報告・検討しているほか、情報が新しいうちに、ラインの活用で情報を共有しています。盆踊りや忘年会で家族同志が交流する機会もあり、開かれたホームを目指しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月一回の会議において職員からの意見を取り入れ、理事長、施設長に報告、提案を行い運営・施設整備の改善を図っている。	月1回開催される会議では、利用者についてのカンファレンス、業務内容についての提案や要望、研修報告等が行なわれ、運営に反映しています。職員の悩みや職務に対する本人の希望についても、所長は、気を配り良き相談相手となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の安心安全が保てるように、環境整備を進め、やる気、意欲向上に繋げる事に関しても協力的である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修のほかに、外部研修会に積極的な参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりや、サービスの質の向上を目指し、同業者施設との勉強会（月1回）や、合同レク（月2回）を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と関わっている事業所とも連携を図り 事前にホームを見て頂くなど、ご本人やご家族の理解、納得を得てから、入居の運びとしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しては事前にホームを見学して頂く事を必須とし、信頼を欠くことがないよう不安な点など確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている援助を見極め、家族の思いとご本人の思いが相違する場合には、ご本人の気持ちを代弁することもある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑作業、買い物、洗濯物干しなど利用者と一緒にを行うことによって支えあう関係を築き、職員は「ありがとう」の声掛けを忘れないようにしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事も実施している。また、受診や理美容の立会なども家族に担って頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の馴染みの方の来訪もあり、行きつけの美容室やかかりつけ医の継続など関係が途切れないように支援している。	昔からの習慣である仏壇のお参り、神棚の設置、特養で毎月行われる各宗派のお教え・お参りに参加、家族との関係継続、友人の訪問や市内のイベントへ参加、理・美容へ直接出掛ける、スーパーへ買い物に行くなど、様々な場面で習慣を忘れない支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールへの往来は自由で、個々は思い思いの場所で過ごされている。写真や作品を見ながら利用者同士の会話もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で職員は利用者の思いや意向の把握に努めている。会議の際に意見を出し合い検討している。	所定の情報収集用式に半月ごとに入力し、状態の変化について把握しています。利用者本人から直接聞き出し、会議の時の職員からの情報や訪問時に伺った家族の意見も反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族来訪時に確認をするなどして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のミーティングでも伝え合い現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を考慮し、職員の日々の気付きを踏まえ現状に即した計画を作成している。	所長(介護計画作成担当者)が中心に6ヵ月毎に見直し・モニタリングを行っています。会議や日常の報告、家族からの要望をふまえて介護計画作成に反映しています。職員は介護計画に沿った日常の記録と、エピソード記録で利用者の様子の記載に努めています。	グループホームでの介護計画作成については、利用者、家族、職員、介護作成担当者等と話し合い、それぞれの気付きやアイデアが反映される事で、現状に即した計画になります。現場の職員が責任を持って参加し、自分自身のスキルアップに繋がられるように期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有しながら計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズには可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所は孤立せず、地域交流を絶やさず支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	基本的に職員が同行しかかりつけ医の受診支援を行っている。変化がある際はその都度、家族に報告している。	利用者、家族が希望する医療機関に、職員が同行する事で受診支援が行われています。健康状態に不安がある時は家族と一緒に、定期受診を継続する事で医療機関と信頼関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院の看護師や法人内の看護師と相談しながら利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは必要な情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になった場合には対応は出来ないことを説明している。重度化した場合には家族の協力を得ながら可能な限り対応している。	前回の課題であった、終末期についてのホームで出来る最大のケアについて、契約書・重要事項説明書を見直し、明記しています。職員のターミナルケアについての知識・医学的知識を深め、内外研修の参加が積極的に行えるよう働きかけを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の特養にAEDを設置。各事業所職員と合同で定期的に救命救急の研修を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を年2回実施。地域の災害救出協力会や運営推進委員とも連携が図られている。	夜間を想定した年2回の避難誘導訓練を実施しています。地域の災害救出協力会・運営推進会議のメンバーの協力もあり、現場の緊張感を利用者と一緒に感じています。外部研修にも出かけ、実体験を通して避難の取り組みに活かしています。緊急持ち出しについては、現在職員に課題として提示しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りを傷つけない言葉使いや対応に努めている。個人情報の書類は見えないようにしている。	利用者一人ひとりの生活のペースを尊重し、人格や羞恥心に配慮しながら声かけしています。職員の守秘義務を徹底し、利用者の写真・氏名の掲示・掲載などの同意書を得、個人情報保護に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢のある声掛けや質問をするなど自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の状態、希望にそえるよう可能な限り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際は身だしなみに心がけ お化粧の援助も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や食事準備、後片付けなども職員と一緒に に行い 職員や利用者同士の会話を楽しみながら から食事をして頂いている。	朝食、昼食については特養からの配食で対応し、最近選 択食の採用もしています。夕食については利用者と一緒に に食材の買い出し、手伝ってもらいながらホームで調理 し、職員と一緒に食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	母体の栄養士とも連携を図り 利用者個々に応じ た支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人 ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを している	利用者個々の力に応じた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの 力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの 排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々に応じた支援を行っている。	職員は利用者毎の排泄パターンを理解する事で声掛け し、誘導しています。自立されている方も多く、トイレ排泄 を優先した対応となっています。夜間も日中と変わらない 支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫 や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り 組んでいる	利用者個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽 しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めて しまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施。一人ひとりゆっくりと入浴を 楽しんで頂けるよう午前と午後に入浴を計画して いる。	週3回の入浴日を設け、毎回利用者全員の対応をしてい ます。午前・午後に分け、ゆっくりと時間をかけ入浴を楽 しんでいます。拒否傾向の方には、さり気ない声掛けや、 日を変える事で対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援 している	眠れない方には話し相手になったりホットミルクを 飲んで頂くなどして、安心して休んでいただけるよ う支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	介護員がいつでも確認できるように、薬の説明書 の保管場所を決めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人 ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽し みごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割として決めつける事はせず 得意分 野で負担なく力を発揮して頂けるよう支援してい る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩を定期的に行っている。母体の特養と合同の行事やGH単独でのドライブ等戸外に出かける行事を実施している。	日常の散歩や日光浴を、積極的に行なっています。併設の特養やスーパーへの買い物、急なドライブなどへも出かけています。ミニ運動会やふまねっと運動、各種クラブ活動も毎月続けられ、利用者の意欲向上や体力維持に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じてまた、家族とも相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話を使用して自室でもお話をし頂くなど、可能な限り支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分の壁には、手作りの季節の飾りや行事で撮影した写真などを張っており、ホールや廊下にあるソファに腰掛けその日その時の気分に合わせて過ごして頂いております。	玄関を入ると、職員全員の似顔絵が迎えてくれ、微笑ましい雰囲気が伝わります。ホール内のあちらこちらには職員と一緒に作成した手芸や書道の字が飾られ、利用者と家族が切り取った写真も貼ってあります。映像で写真や動画も見られ、活動で参加した利用者の様子が何時でも振り返る事が出来ます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	作品や写真を見ながら会話を楽しまれたり、テレビを見ている人など思い思いに過ごして頂いております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはカーテン、ベッド、冷蔵庫、チェスト、ストーブが備え付けであるが、各自で家具や椅子、仏壇などを持ち込まれ、家族とも話し合って居心地良く過ごせるように工夫しております。	利用者の使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、安心して暮らせるように配置しています。自分の作品や写真も貼られ、ホームでの生活が楽しさであふれているのが伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	対面式の台所が建物の中央に位置しておりホール全体を確認できるようにしている。		